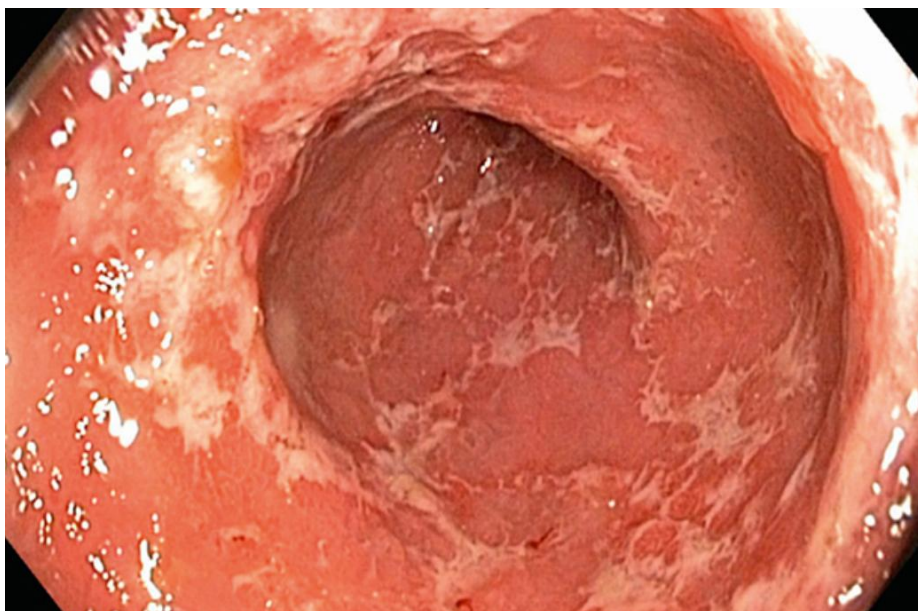


糞便中カルプロテクチン値による大腸内視鏡検査所見の予測

スペインの Jusué V 氏らは、炎症性腸疾患（IBD）の非侵襲的マーカーである糞便中カルプロテクチン値の大腸内視鏡検査所見の予測精度を評価した結果、優れた診断精度が示されました。



最適なカットオフ値は、

潰瘍性大腸炎では

ローレンジキット 50（感度 85%、特異度 79%）、ハイレンジキット 102（感度 85%、特異度 79%）、

クローン病では

ローレンジキット 54（感度 71%、特異度 75%）、ハイレンジキット 122（感度 71%、特異度 75%）

と報告されました。

